

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

1. 対象 特別支援学校 中学部1～3年

年間5期の単元で計画されており、この単元は第2期にあたる。2，3年生は第1期で農園芸班の作業内容を知り、主に夏野菜の苗植え、季節の花の種まきなどを行ってきた。1年生は学年で作業体験を行ってきたが、先輩と一緒に所属する作業班で学習をすることは今回の第2期が初めてである。2，3年生にとっては、自分たちが覚えた農園芸班の作業を後輩に教えられる機会でもあり、1年生は先輩と関わりながら仕事を覚え、この作業班に親しみをもっていく段階である。

2. 単元名 「農園芸班で育てた野菜をプレゼントしよう！」（全5時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・育てている野菜の名称や色、味などの特徴が分かる。 ・花や野菜の育て方を知ることができる。
思考力，判断力，表現力等	・自分が好きな野菜やその野菜の特徴を身の周りの人に伝えることができる。 ・野菜が実ったり、花が成長したりするためにはどんなことが必要かを考え、実践することができる。
学びに向かう力，人間性等	・お世話になった先生にプレゼントすることが分かり、野菜の収穫やメッセージカード作りに意欲的に取り組むことができる。

4. 授業展開【 本時 ・ **単元** 】

解決したい課題や問い

相手にプレゼントするものをまず、知りたい！味わいたい！

・春先に種まきした夏野菜が実ってくる。（6月下旬）

写真を見ながら、T「畑の野菜どうなってるかな？」 S「見に行きましょう。」

畑に行き、確認する。S「うわ。大きくなっている！」

T「採れた野菜、どうしょっか。」

S1「〇〇に、プレゼントしたい！」 S2「（ぼそっと）食べたい、、、」

T「味見してから、プレゼントする？それともそのままプレゼントする？」

S「食べよう！」「食べてみたい。」

という流れで、まず、農園芸班のメンバー自身が調理実習する。野菜を切り、焼いたり、そのまま食べたり、塩や醤油などの調味料をつけて食べたりする。

S「なすって、焼いたらやわらかくておいしい。」「甘い。」

S「トマト、そのままおいしい。」「塩をつけるとおいしいよ。」

S「いんげん、かたい。」 S「焼きピーマンと鰹節、合う！」

S「きゅうり、簡単に切れるね。」

S「また食べたい。」「次の野菜できるかな。」

考えるための材料

- ・夏野菜の種まき、水やり、収穫
- ・畑、庭などの環境
- ・採れた野菜を使った調理実習
- ・プレゼントしたい相手を選ぶ時間

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

（「解決したい課題」での思考からの続き）

調理実習を終え、感想を生徒に尋ねると上記のような感想が見られた。

〇〇先生にナスを選び届けにいく生徒。

S「農園芸班で育てたナスです。どうぞ。」

T「おお、すごいね。」

S「甘いです。」と紹介する。また、きゅうりは塩をつけるとおいしいなどの調理方法も伝えられるとよい。

調理実習で自分たちが育てた野菜に対してさらなる愛着をもち、味を知ることで周りの人にもその良さを伝えることができると想定する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・自分たちが育てた野菜をよろこんでくれた。
 - ・自分たちが好きな野菜を喜んでくれて嬉しい。
 - ・また次の野菜も育てたい。
 - ・冬野菜も育ててみたいな。どんな野菜があるんだろう？
 - ・それらの野菜も食べてみたいな。
 - ・新しい野菜もプレゼントしたい。
 - ・おいしくなあれ。大事に育てよう！
- 次の農園芸作業への意欲となる。